

エコアクション21

環境経営レポート

2023年度

運用期間 2023年 4月1日 ～ 2024年 3月31日



株式会社 三郎建設

2024年 5月 1日 発行

【 目次 】

表 紙	…P1
目 次	…P2
1. 事業概要及び対象範囲	…P3
1) 事業者名及び代表者名	
2) 所在地	
3) 環境管理責任者及び事務局及び連絡先	
4) 事業創立年月日	
5) 事業活動の内容	
6) 対象範囲	
7) 事業規模	
8) 推進組織図	
2. 環境経営方針	…P4
3. 環境経営目標	… P5
4. 環境経営目標の実績	… P6
5. 環境経営計画とその取組結果及び評価	… P7
6. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	… P8
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに 違反、訴訟等の有無	… P9
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	… P9

1. 事業概要及び対象範囲

1) 事業者名及び代表者名

株式会社 三郎 建設
代表取締役 黒木 文也

2) 所在地

〒883-0102 本社：宮崎県日向市東郷町山陰丙1479番地7
土場：宮崎県日向市東郷町山陰丙1491番地31
老谷倉庫：宮崎県日向市東郷町山陰丙1074番地11
羽坂土場：宮崎県日向市東郷町山陰丙1138番地

3) 環境管理責任者及び事務局及び連絡先

EA-21 責任者：岩倉 重徳
EA-21 事務局：黒木 美知子
連絡担当者：岩倉 重徳 (EA21責任者)
TEL 0982-69-2136 FAX 0982-69-2543
E-meil: saburou@mnet.ne.jp

4) 事業創立年月日

昭和 47年 8月 2日 [創立から 51年]

5) 事業活動の内容

許可番号 建設業許可 宮崎県知事許可(特-3・般-3)第75号
許可業種 (土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、水道施設工事業)
(建築工事業、管工事業、解体工事業)

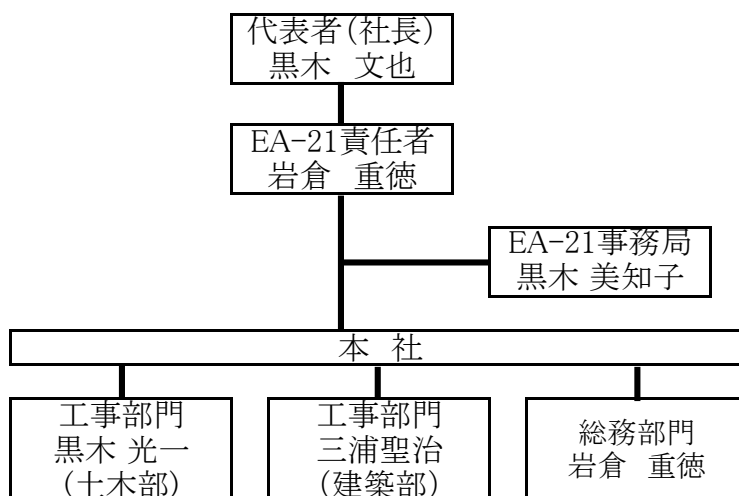
6) 対象範囲(全組織・全活動)

組織…… 本社、土場、老谷倉庫、羽坂土場
活動…… (5)事業活動の内容全て
レポート対象期間…表紙に掲載 レポート発行日…表紙に掲載

7) 事業規模

項目	単位	2020年	2021年	2022年	2023年
工事件数	件	35	30	51	56
売上高	百万円	474	428	749	551
従業員数	人	15	14	16	17
床面積	m ²	150	150	150	150
敷地面積	m ²	450	450	450	450

8) 推進組織図



2. 環境経営方針

環境経営方針

私たちは、建設業を通じ、次代に引き継ぐべき環境を
責任をもって守り、伝えます。

1. 当社は、建設工事の事業活動において生じる環境への負荷を抑制するために、環境マネジメントシステムを構築・運用し、継続的改善を図り、維持する。
2. 当社は、当社の環境側面に関係して適用可能な法令・条例等及び当社が同意する業界基準・発注者の特記仕様書等の要求事項を遵守する。
3. 建設工事において、環境に与える影響を削減するため、次の事項に対して優先的に取り組みます。
 - ① 建設産業廃棄物の適切な処理
 - ② 通勤用・工事用車両・建設用機械等による二酸化炭素の削減
 - ③ 節水活動による水使用量の削減
 - ④ 苦情の発生の予防
 - i 騒音・振動の削減
 - ii 粉塵・土埃の発生の抑制
 - iii 交通規制での配慮
 - iv その他の苦情の発生予防
 - ⑤ 地域の環境保全・環境美化活動への積極的参加
 - ⑥ 環境負荷低減やその他課題対応のため環境改善に努めます。
4. 社員の高齢化と人材不足の建設業で、若手社員の育成に努める。

この【環境経営方針】は、社員及び当社と共に働くすべての人に周知すると共に、一般に開示します。

2019年 5月 1日 改訂
2013年 7月25日 改訂
2012年 5月 1日 改訂
2010年 5月13日 制定
株式会社 三郎建設
代表取締役 黒木 文也

3. 環境経営目標

当社の第五次中期(2022～2024年度)の環境経営目標は、環境負荷の調査により、2015年度～2017年度(2015年4月～2018年3月)の3ヶ年のデータを基準値として設定しました。

取組み項目 (目標項目)(単位)		実施区	年 度 別 環 境 目 標				
			基準値 (2015年4月～ 2018年3月の 実績平均)	2022年度 (2022年4月～ 2023年3月)	2023年度 (2023年4月～ 2024年3月)	2024年度 (中期の到達目標) (2024年4月～ 2025年3月)	
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg- CO_2)		事務所	18,294.5	17,818.8	17,800.5	17,782.2	
		現場	121,673.1	118,509.6	118,387.9	118,266.2	
		全社	139,967.6	136,328.4	136,188.4	136,048.5	
①電気使用量の削減 (総電気使用) (kWh)		削減率%⇒		2.6	2.7	2.8	
		事務所	5,503.0	5,359.9	5,354.4	5,348.9	
		現場	6,478.0	6,309.6	6,303.1	6,296.6	
		全社	11,981.0	11,669.5	11,657.5	11,645.5	
②ガソリン使用量の削減 (L)		削減率%⇒		2.6	2.7	2.8	
		事務所	6,747.0	6,571.6	6,564.8	6,558.1	
		現場	10,503.6	10,230.5	10,220.0	10,209.5	
		全社	17,250.6	16,802.1	16,784.8	16,767.6	
③軽油使用量の削減 (L)		削減率%⇒		2.6	2.7	2.8	
		事務所	0.0	0.0	0.0	0.0	
		現場	36,509.8	35,560.5	35,524.0	35,487.5	
		全社	36,509.8	35,560.5	35,524.0	35,487.5	
2 廃棄物の削減	①.. 一般廃棄物の削減 (kg)		削減率%⇒		2.6	2.7	2.8
			事務所	114.3	111.3	111.2	111.1
			全社		111.3	111.2	111.1
	②. 建設副産物再資源化率の向上 (%)		現場	実績 248.6 トン	環境経営計画を遵守し、再資源化率の向上を図る (再資源化率90%以上)		
3. 水資源使用量の削減 (年間水資源総使用量) (m^3)		削減率%⇒		2.6	2.7	2.8	
		事務所	117.7	114.6	114.5	114.4	
		全体	117.7	114.6	114.5	114.4	
4 環境改善活動	①. 環境保全の取組推進 (ボランティア活動の実施)		全社	7回	5回以上/年	5回以上/年	5回以上/年
	②. 環境配慮型の取組推進		全社	9回	環境経営計画を遵守	環境経営計画を遵守	環境経営計画を遵守

【改訂履歴】 *2022. 5. 1 ・2015～2017年度の実績平均を継続基準値として第五次中期の目標を設定

・電気のコ₂排出係数は2022.1.7公表九州電力の調整後排出係数を採用した。

・削減率は、第四次に続き、2. 6% 2. 7% 2. 8%と順次上げて取り組む。

※化学物質(PRTR制度対象物質)の使用、購入、保管、移動ともありません。

※二酸化炭素排出量は下記の計算に基づき設定した(排出量(kg-CO₂) = 使用量(A) × 排出係数(B))

		使用量(A) ×	排出係数 (B)	
購入電力		kWh	0.480	(kg-CO ₂ /kWh)
ガソリン		L	2.32	(kg-CO ₂ /MJ)
軽油		L	2.58	(kg-CO ₂ /MJ)

4. 環境経営目標の実績

環境経営目標に対する達成状況は以下の通りです。

1、実績値は、2023年度運用期間(4月～3月)の12ヶ月と、目標値は基準年度(2015～2017年度実績平均)の同期間の削減率から算出した年合計の値と比較する。

取 組 項 目		2023年度目標値 (2023年4月～ 2024年3月)	2023年度 実績 (2023年4月～ 2024年3月)	達成率	判定	
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	事務所	17,800.5	9,830.6	181.1%	○	
	現場	118,387.9	106,909.3	110.7%	○	
	全社	136,188.4	116,739.9	116.7%	○	
	①電気使用量の 削減 2. 7% (kWh)	事務所	5,354.4	4,892.0	109.5%	○
		現場	6,303.1	4,805.0	131.2%	○
		全社	11,657.5	9,697.0	120.2%	○
	②ガソリン使用量の 削減 2. 7% (L)	事務所	6,564.8	3,225.2	203.5%	○
		現場	10,220.0	9,913.3	103.1%	○
		全社	16,784.8	13,138.5	127.8%	○
	③軽油使用量の 削減 2. 7% (L)	事務所	0.0	0.0	—	—
		現場	35,524.0	31,629.5	112.3%	○
		全社	35,524.0	31,629.5	112.3%	○
2. 廃棄物の削減 ①一般廃棄物の削減2. 7% (kg) ②建設副産物再資源化率 の向上 (%)	①全社	111.2	105.0	105.9%	○	
	②現場	環境経営計画を 遵守し再資源化率 の向上を図る (90.0%以上)	環境経営計画 を遵守済み 実績529.8t／再資 源化率98.1%)	109.0%	○	
3. 水資源使用量の削減2. 7% (m ³)	全社	114.5	121.0	94.6%	×	
4－①. 環境保全の取組推進 (ボランティア活動の実施)	全社	5	11	220.0%	○	
4－②. 環境配慮型製品・ サービスの提供	全社	環境経営計画 の遵守	遵守 (研究会3回)	—	○	

※ 購入電力のCO₂排出係数は、九州電力の調整後係数0.480(kg-CO₂/kWh)を使用しました。

※ 達成率は、項目1～3が、目標/実績 100%以上が評価○で、項目4～が、実績/目標で100%以上が、評価○とする。

5、環境経営計画とその取組結果及び評価

2023年4月から2024年3月までの環境経営計画と取組結果は以下の通りです。

取組項目		活動内容	取組結果	評価
1・二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底	お昼休みに、消し忘れないように気づいたら声掛けをおこなう。 退社するときは、消し忘れがないか確認する。	○
		②空調温度管理(設定温度遵守)		○
		③照明器具やエアコンフィルターの定期的な清掃		○
		④OA機器の電源入力の適正化		○
	ガソリン使用量の削減	①エコドライブの徹底 (アイドリングストップ、急加速等の禁止)	時間に余裕を持って運転しています。遅れてきても、慌てないで運転するように心がけている。 月に1度は、必ず洗車を行っています。	
		②車両管理の徹底		○
		③効率の良い配車〔相乗り〕		○
		④忘れ物によるUターン防止の為に事前段取りの徹底		○
	軽油使用量の削減	①車両管理の徹底(定期点検)	オイル交換は、ステッカーを張っているものでそれで確認している。 車検は、車両管理台帳で確認している。 当年度は第3四半期に重機を使用する工事が集中したが、全体の使用量は減ったため全社のCO2の目標を達成した。	○
②重機の定期点検整備の実施		○		
③重機のフルアクセル操作の抑制 (アクセル7割運動の推進)		○		
2・廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	①ミスコピーの防止、両面コピーの徹底	裏紙としてファックス、メモ用紙等に使用することが定着し、購入量の削減にも効果が出ている。	○
		②使用済み用紙の両面コピーの徹底		○
		③ゴミ分別の徹底		○
		④資材梱包材の業者持帰り依頼		○
	②. 建設副産物 再資源化率の向上 (%)	①できるだけ分別廃棄を行い、再資源化量を増やす ②端材発生防止の為に、資材発注時は、在庫及び仕様書の数を確認する ③排出先(リサイクル業者)の選定と確認	分別廃棄は、各現場の状況に応じて行っている。	○ ○ ○
3. 水資源使用量の削減 (年間水資源総使用量)		①定期的な漏水点検 ②手洗い時の流し水を短くする	当年度は7～11月に使用量が多くなっている。現場へ持参する水量が多く未達になった。	○ ○
4ー①. 環境保全の取組推進 (ボランティア活動の実施)		①事務所周辺の清掃活動 ②地域ボランティア活動参加	定期的に会社前の駐車場の草刈りを実施しています。 また、地域ボランティア活動も出来るだけ参加している。	○ ○
4ー②. 環境配慮型製品・サービスの提供		①環境に関する研究・講習への参加 ②環境に配慮した重機等の活用 ③環境配慮型施工法や資材利用の提案 ④資材等のグリーン購入	工事看板にソーラーパネル搭載。 現場周辺の環境に配慮した案内や施工に努め苦情クレームは殆んど発生していません。	○ ○ ○ ○

6、次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度(2024年度)の環境経営目標と環境経営計画は下表のとおり取組ます。

次年度の環境経営計画				環境経営目標
取組項目		活動内容	推進部門	
1. 二酸化炭素排出量の削減		①省エネ活動の推進	EA21 責任者	2024年度の環境経営目標は、5ページの3. 環境経営目標に掲載しています。
省エネ活動	電気使用量の削減	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底 ②空調温度管理(設定温度遵守) ③照明器具やエアコンフィルターの定期的な清掃 ④OA機器の電源入力の適正化	総務部	
	ガソリン使用量の削減	①エコドライブの徹底・アイドリングストップ、急加速等の禁止 ②定期的点検整備の実施 ③効率の良い配車[相乗り] ④忘れ物によるUターン防止の為の事前段取りの徹底	土木部	
	軽油使用量の削減	①車両管理の徹底 ②重機の定期点検整備の実施 ③重機のフルアクセル操作の抑制(アクセル7割運動の推進)	土木部	
2・廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	①ミスコピーの防止、両面コピーの徹底 ②使用済み用紙の両面コピーの徹底 ③ごみの分別の徹底 ④資材梱包材の業者持帰り依頼	土木部	
	②. 建設副産物再資源化率の向上(%)	①できるだけ分別廃棄を行い、再資源化量を増やす ②端材発生防止の為、資材発注時は、在庫及び仕様書の数を確認する ③排出先(リサイクル業者)の選定と確認	土木部	
3. 水資源使用量の削減 (年間水資源総使用量)		①水道配管の定期的点検 ②手洗い時の流し水を短くする	総務部	
4・環境改善活動	①. 環境保全の取組推進 (ボランティア活動の実施)	①事務所周辺の清掃活動 ②地域ボランティア活動参加	総務部	
	②. 環境配慮型の取組推進	①環境に関する研究・講習への参加 ②環境に配慮した重機等の使用、リースや活用 ③環境配慮型施工法や資材利用の提案 ④資材等のグリーン購入	総務部	

* 活動スケジュールは2024年4月から2025年3月とする。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

関連法規制の遵守状況確認を毎年4回実施しており、違反はありませんでした。
また、監督官庁からの指摘ありませんでした。 地域住民からの訴訟などありませんでした。
尚、現場での遵守状況は、月1回の安全パトロールや会議等を通じて常に確認しています。
〔当社の主な環境関連法規と遵守状況は下記の通りです。〕

主な法規名	遵守事項	遵守評価
廃棄物処理法	委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	回収・照合確認(発行後B2,D票90日E票180日以内) A表の5年間保管	遵守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告(6月30日までに知事へ報告)	遵守
	保管場所の掲示板設置	遵守
再生資源利用省令	・再資源利用計画書・実施書の作成 ・再資源利用促進計画書・実施書の作成	遵守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出	遵守
	分別解体、再資源化促進、再資源化により得られる資材の使用	遵守
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	遵守 該当工事なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	遵守 該当工事なし
フロン排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用エアコン等の簡易点検実施 (重機搭載のエアコンを含む)	遵守 対象あり

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

評価項目	代表者による評価と指示
環境経営計画の 実施状況 及び 環境経営目標の達成状況	(環境経営計画の実施状況) 環境経営計画(兼)実施評価表により確認した。計画した活動はほぼ実施されている、 今後も社員に周知して2024年度を活動してもらいたい。 (環境経営目標の達成状況) 環境経営目標実績管理表で確認したが、今期は遠方の現場が少ないため事務所及び 現場のガソリンの使用量が少なかった。軽油に関しては9月より12月まで民間の造成 工事を受注し、自社による施工の為重機を多用した為増加したが全社的にはCO2 削減の目標が達成できた。また水資源を除き全項目で達成できたことを評価する。 経営的にも、増収増益でした。
環境関連法規の遵守状況	チェックリストで確認したが、当社に関連する法規等は、すべて遵守している。 今後も法規等の改定情報の取り纏めと遵守を継続すること。
外部からの環境上の苦情クレーム の対応状況	ボランティア活動は、建設業協会が主催した活動が主ですが、11回の参加は十分評 価する。環境に関する苦情・クレームも特に無かったが、今後発生したら関係者で速 やかに対応すること。
マネジメントシステム全般に ついて	2019年度から建設業ガイドライン(2017年版)へ移行し、2023年度を運用したが特に 運用上の問題はなかった。環境負荷と実績のリンク型を特に問題もないので引き続き 利用している。
環境経営方針	2020年度に2017年版に準じて改定し2023年度を運用したが、特に不具合が無かつ たので現行方針を継続する。
実施体制	2023年度の運用上で特に支障は無かったので、次年度も改訂せず現行の実施体制 を継続する。